

ペルー -- 縮まらない住宅の格差 (特集 世界の住まい・今)

著者	清水 達也
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	191
ページ	34-35
発行年	2011-08
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004183

ペルー

— 縮まらない住宅の格差

清水 達也

だった地区でも主要道路や海岸沿いにマンションが目立つようになってきた。これまでは高くても一〇階程度だったが、新しい建設プロジェクトのなかには二〇階を超える高層マンションも現れている。

●大きな格差

コスタの都市部が経済成長に沸く一方、シエラやセルバではインフラの整備や住宅環境の改善は進んでいない。この状況を人口・住宅センサスの数字で確認しよう。

センサスでは住宅の資材について調べている。低所得者層の場合、地域内で手に入りやすくそれぞれの地域の気候に適した材質を使って、自ら住宅を建設することが多い。雨の降らないコスタではエステラ（むしろ）、シエラ農村部ではアドベ（日干しレンガ）、セルバでは木材が多い。レンガまたはセメントは高級資材（material noble）とされ、この資材で造られた住宅が多いことは、所得水準の向上を示す目安のひとつとなっている。

表は一九八一年以降に実施された三回のセンサスのなかで、住宅が高級資材で造られている割合を州ごとに示したものである。この

世帯の割合も依然高いままである。本稿では経済成長の利益を受けて急速に変わりつつある都市部と比較しながら、ほとんど変わらないシエラの農村部の状況を、住まいの様子を通して紹介する。

●成長に沸くコスタ都市部

首都リマはここ数年、交通インフラ、商業施設、住宅の建設ラッシュに沸いている。慢性的な渋滞

が問題となっていた市内の幹線道路や国際空港へのアクセス道路には、立体交差のバイパス道が設けられたほか、二〇一〇年には専用レーンを走る連結バスによる輸送システムが完成した。さらに二〇一一年七月には国内で初めてとなる電車がリマ市内で開通し、市内の大量輸送交通網の整備が大きく前進した。

商業施設の充実はリマ市の北や

二〇〇〇年代に入り、国際市場における一次産品価格の高騰を背景に、ペルーでは好調な経済成長が続いている。国内総生産はプラス成長を続け、二〇一〇年には八・八%を記録した。この経済成長のおかげで、首都リマを中心とした海岸地域（コスタ）の都市部では、交通インフラ、住宅、商業施設の整備が急速に進んでいる。

しかし一方でこの経済成長の恩恵は、アンデス山間地域（シエラ）やアマゾン熱帯低地地域（セルバ）の特に農村部には届いていない。反政府組織によるテロ活動が活発であった一九九〇年代前半までと比べると、現在は幹線道路の整備も進み、シエラでも都市部では商業や観光業を中心に経済活動が活発化している。しかしそこから先の農村部では、インフラや住宅の状況に大きな改善は見られない。貧困

表 住宅が高級資材（セメントやレンガ）で造られている割合（%）

州名	地域	調査年		
		1981	1993	2007
リマ	コスタ	70	69	78
タクナ	コスタ	54	67	73
アレキバ	シエラ	47	56	70
カヤオ	コスタ	67	67	69
モケグア	コスタ	34	39	54
ランバイエケ	コスタ	22	30	45
イカ	コスタ	27	30	44
トゥンベス	コスタ	18	27	42
ピウラ	コスタ	26	34	41
フニン	シエラ	17	24	36
ラリベルタ	コスタ	18	22	35
アンカッシュ	シエラ	22	24	33
マドレデディオス	セルバ	n.d.	14	32
サンマルティン	セルバ	n.d.	20	31
ロレト	セルバ	n.d.	22	29
パスコ	シエラ	20	23	28
プーノ	シエラ	5	10	22
ワヌコ	シエラ	8	14	20
ウカヤリ	セルバ	4	11	18
アヤクチョ	シエラ	3	8	16
カハマルカ	シエラ	2	6	14
クスコ	シエラ	3	5	13
アマソナス	セルバ	2	5	12
アブリマック	シエラ	n.d.	2	8
ワンカベリカ	シエラ	2	2	5

（出所）ペルー統計局（INEI）の各年の人口・住居センサスより（www.inei.gov.pe）。
（注）n.d.はデータなし。地域は各州のだいたいの位置を示す。



写真 アドベの壁に茅葺きの屋根の家。ウイチワ村にて（筆者撮影）。

●シエラ農村の住まい

住宅環境がほとんど改善してい

ペルーではコスタとそれ以外の格差が大きな問題となっており、縮まらない格差の一端を住宅資材の差に垣間見ることができる。

さらに、シエラのなかでも商業活動が活発なプーノ州はワヌコ州ではここ四半世紀の間にある程度の改善がみられる一方、国内でも貧困世帯の割合の多いワンカベリカ州やアブリマック州では住宅状況が改善されておらず、高級資材で造られている住宅の割合は一部に満たないままである。

表で明らかなのが、リマをはじめとするコスタでその割合が高い一方、シエラやセルバでは現在でも高級資材が使われている割合が非常に低いことである。

クシーが一日に数往復している。

電気も引かれている。村からチュキバンビージャ市までは乗り合いタクシーが一日に数往復している。

首都リマ市からアンデス山脈を越えてアブリマック州の州都アバソカ市まで夜行バスで約一五時間、そこからピックアップ・トラックで未舗装道路を四時間進んでグアラウ郡の郡都チュキバンビージャ市に着く。さらに山道を約一時間登ったところに目的地のウイチワ村があった。標高三八〇〇メートルに位置し、農業と牧畜を生業とする五〇世帯ほどの小さな村である。村の雑貨屋には公衆衛星電話が設置されており、多くの家には電気も引かれている。村からチュキバンビージャ市までは乗り合いタクシーが一日に数往復している。

ないシエラ農村部の人々は、どのような家に住んでいるのだろうか。ここでは二〇〇七年九月に調査のために訪れたアブリマック州の農村を例に説明しよう。

街の中心部には子供が遊べるような広場があるが、訪問したのは乾期の終わりに近い一〇月で、広場は乾燥中のアドベに占領されていた（本誌表紙写真）。この村ではセメント造りの雑貨屋のほかはすべての家がアドベで造られており、屋根は素焼きの瓦、トタン、茅葺きのいずれかである。教会や

いくつかの家のなかを見させてもらった。どの家も窓が少ないためなかに薄暗いが、裸電球をつけるとなかの様子がわかる。台所の壁には薪を使うかまどが作り付けられており、すすで真っ黒になった鍋やかんが置かれていた。火をおこすと家のなかに煙が充満し

て、煙が目にしみる。水道はなく、調理などにはバケツにためた水を使う。足元をクイ（テンジクネズミ）が走り回り、草や野菜の切れ端を食べながら、こちらの様子をうかがっていた。トイレは家のなかではなく、くみ取り式の簡易施設が敷地の端に設置されている家が多い。

アドベの材料は地元で比較的簡単に入手でき、これで造った家は断熱性に優れている。しかし、窓が少なく換気が悪い、雨があたりと少しづつ崩れる、などの問題がある。これらの問題を解決するために、政府の開発プロジェクトは、かまどに換気口をつけたり、地元で入手できる土などの材料で壁を塗る改善を少しずつ進めてきた。

（しみず たつや／アジア経済研究在ペルー海外研究員）

二〇一一年六月に実施された大統領選挙の決選投票では、市場経済重視の経済モデルを維持しながらも、分配を強調したウマラ候補が勝利した。ここアブリマック州でも七割以上がウマラ候補に投票した。格差が縮まらない状況を、少しでも変えたいという人々の希望の現れであろう。